



〈ストーンカッターズ橋〉青衣島と昂船州を結ぶ全長約1,596m、主塔高さ298mの斜張橋

進化する香港

香港に降り立つと、いつもそのパワフルで新しい魅力に驚かされます。その源は中国の重厚な伝統と経済、そして英国の洗練された文化に起因するのでしょうか。広東・四川・北京などの中国料理をはじめとした多様な食文化、ブランド・シルク製品・漢方薬などのショッピング、競馬・マカオのカジノ、100万ドルの夜景など、貿易観光立国として訪問者を飽きさせません。香港は東京都のおよそ半分の面積(約1,100km²)に約700万人が在住する特別行政区ですが、その戦略的な社会インフラの整備に感心させられます。2005・6と二年続けて経済潜在競争力ランキングにおいて、香港は堂々の1位。ハード面として、毎年「世界一の空港」に選ばれる香港国際空港、港湾コンテナ取扱量最大級、利便性の高い鉄道・道路網など、計画的に物流交通網を拡充しています。一方、ソフト面も世界一自由な経済(貿易障壁となる関税、除外規定等一切なし)、小さな政府、低率・簡素な税制(売上税0、給与所得の最高課税15%など)を標榜し、世界のマナーとビジネスを集結させています。

さて、前田建設は香港と縁が深く、初めて海外進出を果たしたのがクワイチン開発計画(1963年)でした。その後、香港地下鉄、青衣北大橋・カプスイモン橋、香港国際空港などの大型インフラ事業に携わってきました。最近では観光の目玉である「天壇大仏」へ至るトンチョンケーブル(約5.7km)を建設し、現在は世界最大級の斜張橋・ストーンカッターズ橋(写真参照)の施工を担っています(2009年完成予定)。香港あげての観光政策に伴い、建設業における環境・安全衛生の取り組み(法規制、環境保全など)も非常に積極的です。

幾度と時代の荒波に揉まれながらも制度改革を果敢に行い、求心力を維持し輝き続ける香港。わが国や企業もその姿勢を学ぶ必要があると感じさせられます。

詳しくは<http://www.maeda.co.jp/stone/index.html>

(寄稿：前田建設工業株式会社 総合企画部 広報グループ副部長 真田寿一氏)

目次

2008年4月発行

日本から香港へ、そしてその先の世界へ、 便利で快適な旅を提供するキャセイパシフィック航空グループ —キャセイパシフィック航空 ジェームズ・ウッドロー 日本支社長に聞く—	2
香港返還10周年記念特別講演会『進化する香港』	3
香港・深圳 加工貿易奮闘記	4・5
2008/09 JAPAN	
香港貿易発展局主催・参加 展示会及びミッション	6
インタビュー 香港びいぶる 山口商店 山口敏弘さん	7
支部便り 関西	
第五期CMMS香港研修ツアー	8
チャイニーズ・ニュー・イヤール・パーティー 2008	9

支部便り 中京	
新春セミナー・旧正月パーティー 2008	10
支部便り 福岡	
ビジネスセミナー報告/福岡支部役員との「春節の集い」	11
支部便り 山形 食文化山形・食材の宝庫やまがた	12
香港ビジネス懇話会を開催	12
支部便り 北海道 「香港のつどい2008」開催	13
支部便り 宮城	
宮城日本香港協会設立一周年記念「富県経済セミナー」・ クリスマス・パーティー2007を開催 他	14
素人的香港食いだおれ事情 第五回	
老若男女に愛される香港のソウルフード	15

日本から香港へ、そしてその先の世界へ、 便利で快適な旅を提供するキャセイパシフィック航空グループ

—キャセイパシフィック航空 ジェームズ・ウッドロー日本支社長に聞く—

Q 日本での生活はいかがですか？ 楽しんでおられますか？

A 現在、中目黒の閑静な住宅街に家族5人で住んでいます。交通アクセスも良く、また大好物の寿司やおいしいレストランも数多くあり、日本の生活を本当に楽しんでいます。最近では長野県白馬で家族とスキーを体験。パートナーである香港政府観光局が例年、氷の彫刻コンテストに参加していることから札幌雪祭りにも訪れました。また2月初旬には日本のスタッフが一堂に会する年頭の会議のために大好きな福岡にも足を運びました。そして5月中旬には国際慈善団体Oxfam主催の「トレイルウォーカー」にキャセイパシフィック航空チームの一人として参加し、小田原から山中湖まで100kmの山歩きに挑戦します。今後も機会を見つけて日本各地を訪れたいと思っています。

Q 香港ドラゴン航空との連携でますます便利で便数も増えたと伺っております。キャセイパシフィック航空グループのフライトスケジュールにつきお聞かせください。

A 現在、キャセイパシフィック航空では台北経由便を含めて東京から週42便、大阪より週21便、名古屋より週17便、福岡より週7便、札幌より週4便、そして香港ドラゴン航空は仙台より週3便（冬季期間のみ運航）、福岡より週7便を運航しており、キャセイパシフィック航空グループとして日本—香港間で合計週101本の旅客便、さらに貨物便を加えるとその数は週134便にも上っています。

Q 日本人旅行者にとって香港の魅力はどのようなところにありますか？

A 香港はアジアを代表する航空輸送拠点、また中国本土や珠江デルタ地域への玄関口として絶好のロケーションに位置しています。香港と日本の間には時差もほとんど無く、素晴らしい食事、ホテル、ショッピングを楽しむことができます。現時点で香港ドルは対日本円で割安感もあります。キャセイパシフィック航空では短い休暇を利用して手軽に出かけられる旅行目的地としての香港の魅力を探求する「香港逃避行キャンペーン」を実施しています。日本からの海外旅行者数が伸び悩む中、ここ数年は香港への旅行者数は増加基調を維持しています。香港は活気にあふれた魅力的な国際都市です。ますます便利になったキャセイパシフィック航空でぜひ香港へお出かけください。

Q 最近のキャセイパシフィック航空の日本市場での展開についてお聞かせください。

A 日本各地で香港、中国、台湾からの旅行者を多く見受けようになりました。日本はこれらの国や地域をはじめ、世界各国の人々にとって非常に魅力的な旅行先として人気を高めています。今年も香港からの旅客需要に応えるために、旧正月休みと同時期に開催された札幌雪祭りの期間には数多くのチャーター、臨時



ジェームズ・ウッドロー氏
(Mr. James Woodrow)

1967年5月9日生まれ。ケンブリッジ大学マグダレーン校経済・法律学科卒。1990年にジョン・スワイヤー&サンズ(香港)入社。1995年からグレート・バリハイ東京支社および同オーストラリア本社でマネジャーとして活躍。2004年からスワイヤーの完全子会社である国際海運企業インドトランス及びインドトランス・パシフィック(オーストラリア)社でジェネラルマネジャーを務める。2007年7月17日付けで日本支社長に就任。既婚で長女、長男、次男の3人の子供がいる。

便を運航しました。また今年1月末には日本と香港の航空当局の合意により航空サービスにおける大幅な自由化が実現し、首都圏を除く日本各地の主要空港に便数や座席数の制限なしに香港から乗り入れることが可能になりました。キャセイパシフィック航空にとって日本は最重要市場のひとつであり、今後も日本と香港の双方での旅客需要の動向をにらみながら、さらなる増便や羽田からのチャーター運航など日本でのビジネス拡大のチャンスを積極的に探っていきたいと思っています。

Q キャセイパシフィック航空の拡大に伴い、企業としての責任も大きくなっているのでは？

A 先日、キャセイパシフィック航空と香港ドラゴン航空は、乗客が自主的なボランティアにより航空機の利用に伴い排出される二酸化炭素ガスを相殺(＝オフセット)することができる“Fly Greener”プログラムの開始を発表しました。これはアジアの航空会社としては初めての実施となるもので、航空会社が自主運営し、乗客が現金または取得したマイレージポイント(アジア・マイル)でオフセット清算するという点でも新しい試み。このプログラムはキャセイパシフィック航空グループが実施する様々な環境問題への取り組みのひとつであり、今後も引き続き、一企業として環境への負荷を軽減しながら、国際航空運送協会(IATA)などと業界全体としての取り組みにおいても役割を果たしていく所存です。

Q 最後に「飛龍」の読者へメッセージをお願いします。

A 香港と日本は貿易、経済、観光、文化など多方面において良好な関係を保っています。日本香港協会、香港経済貿易代表部、香港政府観光局、香港貿易発展局などの「香港ファミリー」とはさらに緊密で良好な関係を築いていきたいと考えております。キャセイパシフィック航空では常に皆様に喜ばれるサービスを提供してまいりたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

聞き手／広報副委員長 波多江 正孝

香港返還10周年記念特別講演会 『進化する香港』

去る12月3日、香港の中国返還10周年記念行事の締め括りに当たり、六本木ヒルズ内のアカデミーホールにて「進化する香港～大中華圏・アジア経済を牽引する強さの真髄に迫る！」と題する特別講演会を香港貿易発展局と共催致しました。

日本のシンクタンクによって二年連続潜在競争力第一位と認定された香港は、「一国二制度」のもと、中国本土との連携を深めながら、アジアのセンターとして飛躍し続けております。



挨拶する財前理事長

本講演会では、中国胡錦濤指導部の経済政策ブレインの一人として知られ、中国の民営企業研究のエキスパートである中国人民大学民営企業研究センターの黄泰岩所長をお招きし、中国本土側から見た香港の機能・役割についてご講演いただきました。

同氏は1988年中国人民大学経済学部大学院博士課程を修了後、1992年より同大学教授となり、1992～1995年米国サウスカリフォルニア大学経済学部客員教授として中国経済論を講義、1996年同大学経済学研究所長兼経済学院副院長、2004年より現職。2005年には遼寧大学特任教授を兼務し、経済理論誌『経済理論與经济管理』編集長と同大学学術委員会委員を務めるなど、中国における産業分析、企業分析、の第一人者としても知られています。

黄氏は、中国本土経済に対する香港の貢献として、①資金供給基地機能、②国有企業再建に当たっての民間経営ノウハウ、③经济管理モデルの導入、④ハイテク



講演する黄教授

などの技術導入・移転の4点を挙げ、1997年の香港返還以降中国本土の外資導入の過半数が香港経由であったことに触れ、中国の経済発展には華僑資本の集積地である香港の存在が必要不可欠であったとの認識を示しました。

また、資金調達面においても、中国本土の国有銀行大手が香港の証券取引所に上場するなど、中国の金融改革と不良債権処理に当たって大きな機能を果たしたことを高く評価、今後も国際金融センターとして香港は中国にとってなくてはならない存在であり続けることを強調しました。

続いて香港貿易発展局の古田日本首席代表が「中国発展の鍵を握る『進化する香港』」と題し、香港の競争力の源泉としての人的資本・社会関係資本・金融資本・制度資本について解説するとともに『華人ネットワークのセンター』香港の歴史・成長要因に加え、将来への見通しについてプレゼンテーションを行いました。

講演修了後には、「アジア／中華圏における最強のビジネスモデルとは？」と題してパネルディスカッションを実施、当協会の財前理事長がモデレーターを務め、上記2名のプレゼンターその他、シンクタンクミッションメンバーで書籍『進化する香港』編集長も務められたジェトロ主任調査研究員の木内恵氏、金融界の重鎮HSBC投信代表取締役の松田宇充氏をお招きし、会場からの質問も交えて積極的な議論を展開していただきました。



満員盛況の会場風景

今回の講演会は、これまでにない斬新な切り口のテーマであったこともあり、来場者が350名を超えるなど大盛況のうちに幕を閉じました。協会として返還10周年記念に相応しいイベントとなったものと思われれます。

講演会修了後には多数の新規会員のお申し込みをいただきましたので、当協会としましては今後も会員の皆様のお役に立つイベントを積極的に開催して参りたいと考えておりますので、宜しくお願致します。

香港・深圳 加工貿易奮闘記

Technocentre Ltd. テクノセンター(日技城有限公司)

董事長・総経理 佐藤 征洋(元理事)

東京を離れ既に10ヶ月。勤め人の生活も終えて人生第二の仕事をもう一度と第二の故郷香港にベースを移し香港と深圳二箇所を行ったり来たり、香港、大陸中国と日本の異文化と異なる体制の中でもみくちやにされながら仕事をし、人生を謳歌しています。

朝7:00前、香港九龍半島のホンナム (Hung Hom) 駅でKCRの快適な電車に乗りこむと、まばらな乗客は香港、欧米、日本のビジネスマン。新聞や、書類に目を通したり居眠りをするもの人それぞれです。そして目指すは香港の現在と切っても切り離せない広東省・深圳市。それぞれ様々なビジネスを持ち、香港にベースをおいて中国とのかかわりで仕事をする人たちです。

それにしても香港は変わりました。そして今も変化の真っ只中にあります。

思い起こせば38年前企業の派遣で香港大学に留学したまだ香港が貧しかった頃、文化大革命の余波も残り治安は悪化、大陸からは色々な人が国境を越えて香港に逃げ込んでおり、国境での凄惨な事件、市街でもあちこちで爆弾騒ぎも頻発していました。

しかし、いまや香港は超近代的なビジネスインフラを備え世界の人間、情報と資金が飛び交う巨大且つ豊かなビジネスセンター、メガロポリスです。

ホンナム駅から中国深圳の国境に至る風景も大きく変化、九龍半島先端部の世界で類をみない林立する高層ビル群、途中の沙田は以前の広い空き地からいまや数十万人が居住する近代的大タウンに変身しています。まだ、一部昔ののどかな田園風景を残しながらもKCRの近代的快適な電車は一路、落馬洲(LokMaChau)へ。

昨年まではKCRの国境の終着駅は羅湖でしたが、新たに落馬洲駅も完成、羅湖の一つ手前の上水駅から分岐し美しく設備の完備した立派な駅舎・落馬洲駅に向かうことができ、筆者は中国に入る際は利用者の少ない快適なこのルートを利用します。

自由に中国への出入りができなかつた頃は、香港観光客が落馬洲の丘の上に登り望遠鏡を覗き込みながら、社会主義中国の農村部を観察、あれが中国だと感じ入っていたものです。

国境を越えると、すべてが一変。共産党の指導による社会主義体制。根幹の法律がまったく異なり、経済社会体制、生活習慣、レベルも大きく異なります。

目指すはテクノセンターが所有する委託加工貿易の工場、日技城製造廠です。

本社のテクノセンターと深圳の日技城製造廠をご紹介します。

テクノセンターは1991年、日本中小企業では中国への進出を目指しても多大な困難があることから、香港において熱い志のある日本実業家、企業約50社、賛同する個人約200人が資金を出し合い中小企業に手を差



し伸べ委託加工貿易の形で一手に受け入れようとの目的で設立されたものです。

当初、比較的羅湖に近い布吉で工場を設立して9社、総勢800人の小規模から始められましたが、日本から中国への企業進出のブームや種々変遷を経ながら4年前より羅湖から車で約40分の町、觀瀾に移転し大きな飛躍を遂げ、いまやテナントとして入居中の企業数50社、従業員数5,000名、資本金はHK\$41百万(日本円約6億円)となっております。

これだけ成長し規模が大きくなった日技城製造廠では、一種の工業団地として様々なことが要求されます。

まずは、50社への貸し工場の整備。この中国の建設は完成時の仕上がり悪く様々な不具合が現出します。エレベーター、照明、消防設備の不具合、ドア、窓は痛み南方特有のスコールが来ればあちこちでどしゃぶりのような雨漏れもあり、少し暗い倉庫の木造部分では想像を絶するようなシロアリの大群が発生します。



日技城を背景に立つ筆者

生産用電気に加え半年を越える長い夏の冷房の為頻繁に停電する公共電力に頼れず、自分で発電する以外に方法はなく、電気の供給にもっとも神経を使います。その他必要な産業インフラの整備は当然、通信、水道、輸送手段など常に万全の注意が必要です。古い水道管はいつ破裂するかわからないし、施工した業者も凶面も不十分、どこに何が埋まっているかもわからない状態。

これらを行うかなりの中国人従業員は昔の社会主義

体制の責任逃れの思想の持ち主が多く教育からやり直しがが必要です。一日何十台のトラックが物資、製品の輸送で出たり入ったりしますが、その中にはいかにも工場と契約したトラックを偽装し、すっかり製品を持ち逃げしてしまうこともあり得ます。下手をすると外部のやくざっぽい暴力集団が車で乗りつけ金銭のせびりを行いますので、日ごろからいざというときの為、政府、公安等との付き合いが欠かせません。

5,000人の従業員は、中国内部の各地の農村部、例えば湖南、四川、湖北、江西、遠いところは東北部から出稼ぎに来ている若い労働者で、8割は女工さん、昔の日本の集団就職や更には女工哀史を思い起こさせます。一人一人思いはあるでしょうが、大体稼ぎの50～80%は故郷の親兄弟に送金しており、日本の若い人々、全て物質的に充足し、働く意欲の低い人には是非一度見せ、体験させたいところです。住む寮は一室16名、二段ベッドの共同生活。それでも明るくひたむきに残業を厭わず仕事をしてくれる姿には頭がさがります。しかし、工員の主たる目的は給料を稼ぐことですから、わずかに高い賃金を出すところがあると容易に流れてしまい、また賃上げ条件改善を求めるストライキは容易に発生します。これらによりテクノセンターでは年間7,000～8,000人の雇用と離職を繰り返す、即ち人員の回転率は年間140%程度に上がってしまうこととなります。

応募者の身分証の偽造、偽卒業証書、偽健康診断書等何でもあれの環境下で、労賃の計算、退職金、社会保険料等の事務量とその煩雑さがご想像していただけるでしょう。

一方、入居する日本の中小企業は、中国の法制は勿論、商習慣、通関、輸送、決済等貿易取引に疎いところが殆どで、これらの企業に必要な業務の支援を行います。まずは、工場の確保、人の採用と教育、設備を導入する際の通関の手伝い、電気、水等の供給等々。実に想像を絶する仕事量となるわけです。

更に日替わりメニューのように変わる中国の法律、規則に柔軟に且つ対応しなければならず、日本の工業団地に居ると錯覚する一部中小企業をガイダンスすることが大変骨の折れる仕事でもあります。

しかしながら、これら入居した中小企業がどんどん発展し、中には入居時は日本人一人が図面だけを頼りに入居したものが300人の職員を抱え立派な業績を上げているもの、また既に600～700名の陣容となり、いよいよ卒業し独資企業として独立していく状態となっているもの等あり、この成長を見るのがテクノセンター職員の喜びであります。

過去すでに34社の中小企業が立派に独立し、多くは中国で揚々たる業務を展開中で、これからもそれに類する企業を輩出するでしょう。

このような深圳の工場を所有し管理しているのが香港のテクノセンター本社であり、香港のビジネスインフラと税制等有利なビジネス環境をフルに使っています。工場の資産を守り、輸出入の数字・コストの把握、入出金の管理、会計・決算処理等等を担う本社機構と

して機能しており、筆者は週何日かは香港で勤務し会社の運営を行っております。

この、委託加工貿易について近況等をご紹介し、また筆者の独善的解釈をご披露しましょう。

この貿易方式は香港のビジネスマンにより考案されたと言われ、中国の安い労賃を利用して製品を生産する目的の為、中国の鎮に免税で生産設備を送り込み、原材料も免税で輸入し出来上がった製品を香港や諸外国に持ち出す方式です。

広東省を主として近来大きな発展を遂げ、この方式の工場は中国全土で9万、広東省が7万、当然この広東省7万社のほとんどは香港企業が関与すると言われます。

これら委託加工貿易工場から出される製品は中国の輸出額にカウントされ、広東省の70%以上、従って全国の輸出額の数十%に登るとも言われています。

この為とも言われていますが、昨年より中央政府・商務部を中心として加工貿易の制限に乗り出し矢継ぎ早に公告44号他法令、条例を出して来ました。

さすが、香港総商会は素早く制限の緩和策をもとめて反応し、中央・地方政府に働きかけ、また民間レベルのマスコミ、企業家達も色々な運動を展開しました。

また、中国内部でも加工貿易が地方政府の大きな収入源であり、且つ雇用人数も間接的なものまで含むと数千万人とも言われ、一挙に制限していくことは既進出企業の他国への逃避等を招き中央、地方政府にとり大変な経済・社会問題となるでしょう。

現在では、中央・地方政府の役人は当面制限するのは三高即ち、高資源消費、高エネルギー消費、高環境汚染の企業の活動であると明言していますし、実際の運用面では制限は一握りの製品に限られており、影響は極少にとどめられています。

これからも色々な局面展開はあるとは思いますが、利に聡くフレキシブルな香港の実業界の人々は過去、香港フラワー、かつら、繊維産業、プラスチック加工部品工業等を上手く立ち上げ対応し続け、今や中国への返還後も更に経済を高度化し繁栄を謳歌しています。

きっと香港は中国の大きな且つ急激な変化に上手く対応していきながら繁栄を続けていくと信じます。

今日現在も、元日本香港協会理事であった筆者は香港の繁栄を願い、深圳と二箇所を往復しながら日本の中小企業の皆様のためにいくばくかのお役に立てればと奮闘しております。



2008/09 JAPAN

香港貿易發展局主催・参加 展示会及びミッション

日程	イベント名	会場	展示品目/分野
2008年 4月 15	食品販路拡大セミナー	沖縄	食品
27~30	香港自動車部品ミッション	香港	自動車部品
5月 14	食品販路拡大セミナー	広島	食品
15~17	第12回神戸国際宝飾展/ジュエリーセミナー	神戸	宝飾
27	日本・香港経済合同委員会	東京	—
28~30	中小企業総合展/中小企業セミナー	大阪	サービス
	食品販路拡大セミナー	千葉	—
	環境セミナー	大阪	環境
	香港バイオテクノロジーセミナー	東京	バイオ技術
6月 2~6	香港玩具商談会(大阪・東京)	大阪/東京	玩具
2~6	香港環境ミッション来日	東京/大阪	環境
3~6	NEW環境展/環境セミナー	東京	環境
4~6	福岡ギフト・ショー	福岡	ギフト
17~21	日本商工会議所 教育ミッション	香港	教育
19~20	東京おもちゃショー	東京	玩具
7月	香港毛皮展示会	東京/大阪	毛皮製品
8~11	香港繊維ミッション	香港	アパレル・テキスタイル
15~18	香港貿発局会長来日記念セミナー	東京/大阪	—
16~18	インターナショナル・ファッション・フェア	東京	ファッション
8月 14~18	医・食産業ミッション	香港	食品・薬品
27~29	ジャパンジュエリー・フェア2008	東京	ジュエリー
	香港エレクトロニクスセミナー	東京/大阪	エレクトロニクス
9月 2~5	東京インターナショナルギフトショー(秋)	東京	ギフト用品
	大阪インターナショナルギフトショー(秋)/ギフトセミナー	大阪	ギフト用品
30~10/4	CEATEC JAPAN 2008	千葉	エレクトロニクス
	食品販路拡大セミナー	山形/宮城	食品
	広島県食品ビジネスマッチングミッション	香港	食品
	金融セミナー	東京/大阪/名古屋	金融
10月 12~16	香港・珠江デルタ エレクトロニクスミッション	香港、他	エレクトロニクス
16~18	諏訪圏工業メッセ	長野	工業技術
21~22	東京ファッションングッズトレード・ショー	東京	ファッション
22~24	TIFFCOM(アジア・パシフィック・エンタテインメント・マーケット)	東京	映画・コンテンツビジネス
28~31	香港環境ミッション	香港	環境
30~31	香港フォーラム・ミッション	香港	—
30~11/3	東京デザイナーズウィーク(コンテナ展)	東京	デザイン
31	香港法務セミナー	東京	法律
	香港創造コンテンツ産業セミナー	東京	映画・コンテンツビジネス
	アジアコンテンツマーケット	大阪	映画・コンテンツビジネス
	香港・広東省投資セミナー	東京/大阪	—
	食品販路拡大セミナー	福岡	食品
11月 6~8	香港オプティカル・ミッション	香港	眼鏡
12~14	ライセンス・アジア2008/ライセンス・セミナー	東京	ライセンス
	中小企業総合展	東京	サービス
12月 10~12	世界中小企業エキスポ/IDTE・ミッション	香港	サービス/デザイン
2009年 1月	国際宝飾展 IJT2009	東京	ジュエリー
	香港ゲームミッション	香港	アパレル
	食品ビジネスマッチングミッション	四国地域	食品
2月	東京インターナショナルギフトショー(春)	東京	ギフト
	パートナーシップセミナー	九州/北陸地域	—
3月	香港創造コンテンツ・ミッション	香港	映画・コンテンツビジネス

*内容をイベント名で色分けしています。日程は変更になる場合もあります。

2008年3月17日現在

黒：展示会/商談会 赤：2008年度主要イベント 緑：アウトリーチセミナー 青：視察ミッション グレー：その他

香港貿易發展局英・中文サイト：<http://www.tdctrade.com/>
日本語サイト：<http://japan.tdctrade.com/>

香港貿易發展局
Hong Kong Trade Development Council

■東京事務所
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
TEL:03-5210-5850 FAX:03-5210-5860 tokyo.office@tdc.org.hk

■大阪事務所
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル10階
TEL:06-4705-7030 FAX:06-4705-7015 osaka.office@tdc.org.hk

インタビュー 香港びいふる

山口商店
山口敏弘さん (46歳)

理事 長野 容子

昨秋、大変な盛り上がりを見せた香港映画祭（東京）から半年。上映作品のうち「天堂口」（美術、衣装デザイン）、「男兒本色」（アクション設計）が今年の香港国際映画祭金像賞にノミネートされました。映画祭と同じ時期に開催されるのが世界中の映画関係者が一堂に会する「香港フィルマート」。2001年からフィルマートに参加し、香港と日本、映画公開の橋渡しをしてきたコーディネーターの山口敏弘さんにお話を伺います。



フィルマートに参加する山口さん

山口敏弘さんは、香港はじめ中華圏の映画やドラマの日本の映画配給会社へのプロモート、映画の権利を持つ売り手との交渉や契約書の締結といったコーディネート業務に携わっている。サラリーマン、芸能、制作関係の仕事を経て、山口商店を構えたのが7年前。香港映画界で40年以上活躍してきたプロデューサーの染野行雄さんの「染野企業電影工作室」と業務提携しているので、迅速な情報とより安価な取引価格がモットーだ。日本での公開に向けて動いている作品は「中国革命の父」、孫文の生涯を壮大なスケールで描いた『夜・明』（07年・邦題未定）。孫文役のウィンストン・チャオは『宋家の三姉妹』でも孫文を演じた国際的スターで、『夜・明』で上海国際映画祭男優賞を受賞している。ヒロインのアンジェリカ・リーはマレーシア出身の人気歌手でもあり、最近



映画「夜・明」ポスター

はニコラス・ツェーと共演したTVドラマ『大人物』がヒット。昨秋、東京の映画祭で主演2作品が上映されて日本にもファンが多い。監督のデレク・チウは80年代に一世を風靡したTVBの“五虎”中4人が結集した最新作『兄弟』（07年・アンディ・ラウほか主演）でも注目されている。孫文と日本の関わりは深く、映画は日本に亡命中だった孫文が船でマレーシアに向かうシーンから始まる。政治が混沌とする時代、「孫文展」（兵庫県立美術館）が開かれるなど実はアジア思想を見直そうという機運が高まっているようだ。提供会社も決まり、孫文研究家でもある香港貿易発展

局の古田茂美・日本首席代表に字幕、時代背景についてのアドバイスをいただいたという。山口さんは今後、効果的な宣伝や関連イベント開催といったマーケティング戦略に関わっていく。

山口さんのパートナー、染野さんとの出会いは2001年の上海。当時、故ブルース・リーの生誕60年を記念して作られた『フィスト・オブ・フューリー ～復活！ ドラゴン怒りの鉄拳～』（『ドラゴン怒りの鉄拳』の続編）の宣伝プロデューサーを務め、染野さんが作品の製作者だった。実は山口さんが初めて観た香港映画は『燃えよドラゴン』。以来ブルース・リーのファンとなり、80年代には台湾の映画雑誌『銀色世界』を購読。誌上でプロデューサーとして世界初の映画化『三国志』撮影中のスナップ写真やジャッキー・チェンの隣に写っている日本人、染野行雄さんの存在を知り、アクション俳優として名をはせた時代の作品もチェックしたそうだ。だから初めて会った時、「こんなに私のことを知っている日本人は初めて」と染野さんに感激され、一緒に仕事をするようになったという。

そんな山口さんが今の香港映画で気になっているのは「スターの不在」。ジャッキーはやや高齢化、トニーはアート路線へ転向（？）、アンディひとりが気を吐いて、女優も目玉がないから映画に華がない。一方で、昨年後半から古き良き時代のリメイク作品である「江山美人」に「三国志 龍の復活（仮）」、あるいは「投名状」といった歴史大作を連発。新しい流れを作り、世界市場を狙おうという動きが見え、期待はしている。

昨年、香港の映画産業を支援するため、約45億円の基金が設立されて香港電影發展局が創設された。3月17日から開催される「香港フィルマート」は史上最大規模になる見込みだ。今年も山口さんはブースを出展。ここでは売り手（セラー）として日本の映画や番組を世界から集まる配給会社（バイヤー）にプロモートする。



香港映画祭（東京）に勢ぞろいの面々

主催：香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部・香港政府観光局

KANSAI

支部 便り

第五期CMMS香港研修ツアー

関西日本香港協会 理事（華人経営研究部長）

齋藤 治

昨年9月に開講した5期目の「チェーンズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）」は、いよいよ佳境に入った。受講生の理解も徐々に深まってきたところだが、そのタイミングをとらえて、香港・華南の企業などを訪問する恒例の香港研修ツアーが、1月13日から16日までの3泊4日の日程で行われた。

これまでの香港研修ツアーは、11月下旬から12月だったが、今回は年明け早々ということで、ビジネスマンにとって参加は難しいのでは、と危惧していた。実際にふたを開けてみると、忙しいスケジュールをやりくりして、14人の参加者を得たのは事務局としても、驚きであった。

関西空港から香港に到着した当日、早速、CMMSの講師でもある香港財閥ボンドグループ総帥のアンソン・チャン氏邸を訪問した。毎回、訪問しているが、今回はアンソン氏のご母堂で、昨年10月に亡くなられたアニタ・チャン女史の霊前に献花、ご焼香することが大きな目的だった。協会の戒田事務局長は、アニタさんと住友銀行香港支店時代からの公私にわたる交遊を続けてこられた。アニタさんは、CMMSのメンバーをいつも快く迎え、盛大なパーティーを開いてくれた。亡くなられる直前まで、CMMSツアーメンバーの来訪を楽しみにしていたという。

チャン家は、長男のアンソン氏、長女のリリーさん夫妻らが歓迎のパーティーを開いてくれた。参加者にとっては、華人財閥とのプライベートでの交流という貴重な機会だった。

2日目は朝から、100年以上の歴史を持つ「Li & Fung」（利豊）を訪問。ビクター・フォン会長は、香港貿易発展局（TDC）の元会長でもある。IR担当のメーベル・チャン副社長から、グローバルに企業展開する利豊の近代的経営を説明してもらった。顧客向けの整備された商品展示スペースなども見学できた。

この後、開催中だった「ワールド・ブティック香港2008」「香港ファッション・ウィーク」を見学。続いて、TDC本部を訪問し、香港を活用した中国市場戦略、中国のIT関連のサービス外注などについて専門家の話を聞いた。さらに、香港大学のドクター・ツエーの特別講義があった。ツエー先生は、CMMSの理論の柱を構築していただいた恩人。世界中を飛び回っているだけに、今期は日本での講義は実現できなかった。中国市場、特に中間層を重視したマーケティングについて、ツエ

ー先生から直接、最新の知見を聞いたのは大きな成果だった。いつもながらの、身振り、手振りを交えたエネルギーッシュな講義で、深圳に行く予定のぎりぎりまで質問を受け、走るように出ていった。受講者全員、大いに満足したのは言うまでもない。

兎に角、この研修ツアーはいつも中身が濃い。3日目は、バスに乗って早朝出発し、広東省へ。日本人起業家の集まり「和僑会」のメンバーが、経営陣の一角を占めている、東莞市の三協精工へ向かった。小型液晶ディスプレイのバックライトモジュールなどを開発から組み立てまで一貫して行う。30人でスタートした会社が、5年で2800人まで大きくなり、さらに拡張するという。受講生も、この熱気に圧倒された。

バスで深圳テクノセンターに移動し、CMMS講師の川副哲さんの工場を見学し、テクノセンターの佐藤総経理から概要の説明、入居企業の社長さんらの経験談を、和僑会や香港日本人商工会議所のメンバーと一緒に聞いた。しっかりと、CMMSの紹介もしてきた。この後の懇親交流会は、人数もさることながら熱気が溢れ、ストップをかけないとならないほどの盛り上がりを見せ、興奮さめやらぬまま、香港に戻った。

最終日には和僑会との昼食会を開いた。CMMSの講師、立命館大学の守先生が、今回のツアーに参加していただいたこともあり、ミニCMMS講義をしてもらった。香港の和華会では、CMMSをやろうという動きが具体化しており、実際に我々が受講している本物を紹介した訳だ。単なる旅行でなく、学習に主眼がある研修ツアーは、最後の最後まで貫徹できた。

忙しい経営者のみなさんが参加し、「大人の修学旅行」の面も楽しんでもらえたと思う。また、和僑会との関係は一層、強まった。何より、全員無事に帰国でき、結束力が強まったことで、残りの講義にも一層弾みがつくことを期待したい。



第五期CMMS香港研修旅行—アンソン・チャン氏邸にて

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー 2008

関西日本香港協会 理事・文化部長 戒田 真幸

関西日本香港協会では恒例のチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーと2008年度総会を2月20日(水)にザ・リッツ・カールトン大阪で開催し、97名の参加者が旧正月特別料理とアトラクション、豪華景品が沢山当たるラッキードロー等で楽しいひと時を過ごしました。

今年のご来賓として香港経済貿易部代表アルバート・タン氏と同次席代表ギルフォード・ロー氏、香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏が東京から参加していただき、パーティーを盛り上げていただきました。中華人民共和国大阪総領事館からは劉雲清領事と盧偉科領事が出席され、パーティーを楽しんでいただきました。又、官界からは経済産業省近畿経済産業局の総務企画部長山田宗範氏と通商部長高畑郁世氏に参加していただき、財界からは大阪商工会議所、関西経済連合会、大阪輸出入協会、日中経済貿易センターや日中経済協会関西本部等の業界団体の代表が多数参加されて活発な交流がなされました。

このパーティーは協会の年間事業の中で協会会員の親睦を図る最大のイベントですが、官界、財界や業界団体から参加してもらったことにより大阪における関西日本香港協会の存在感を高め、皆が大好きな香港を大いにPRする効果もあったものと思われま

す。パーティーは木全千裕副会長の挨拶で始まりました。木全副会長は挨拶の中で、今年の旧正月は中国で大寒波の為に交通が遮断され沢山の人が故郷に帰れなかったことに対して同情の意を表明さ



開会挨拶する木全副会長

れ、チャイニーズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクール等協会の年間事業を詳しく説明され、今年は新たに経済セミナーを2回開催すると発表されました。続いて、日本香港協会会長、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏が歓迎の挨拶をされました。古田氏は挨拶の中で、日本経済総合研究所が毎年発表している潜在的国際競争力世界ランキングで香港が今年も世界第一位になったこと、米国のタイム誌のマイケル・エリオット記者が世界経済を牽引する3都市(ニューヨーク・ロンドン・香港)を「ニューロンコン」と称して港湾都市・国際金融市場として飛躍的に発展を遂げて

いる香港が世界経済の発展に重要な役割を果たしている」と解説している内容を紹介されました。香港に対して皆さんの関心が増々高まったことでしょう。乾杯は、経済産業省近畿経済産業局の総務企画部長山田宗範氏が春節を祝う祝詞を述べられ、協会の発展と参加者の健康と多幸を祈念して音頭を取られ、全員元気にビールで乾杯しました。

広東料理の春節特別菜譜で会食に入りましたが、会食の途中で齊藤治理事が今年の1月13日から1月16日の日程で実施した第5期チャイニーズ・マネジメント・アンド・マーケティング・スクールの中国華南・香港研修ツアーの実施内容をスクリーン上に写真で紹介し説明しました。

当協会のチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーでは、日中文化交流の目的で毎回日本で活躍している中国の芸能人をアトラクションで紹介しています。今年是中国広東省中山市出身の舞踊家胡紅侶(こころ)さんに漢民族舞踊で旧正月を祝う「元宵節」と中国古典舞踊の「天女」を彼女が中国舞踊を指導している生徒達と一緒に踊ってもらいました。衣装も踊りも優雅で美しく、皆さん堪能されたことでしょう。胡紅侶さんは3才からバレエと中国舞踊を始め、北京舞踊学院、



中国人舞踊家 胡紅侶(こころ)氏によるアトラクション

中国北京民族大学で学ばれて中国では何度も舞踊優勝賞を受賞、日本舞踊やニューヨークでのバレエ、ジャズ・タップ・モダンダンスも研究、明るい笑顔と感情溢れる演技でリサイタルやテレビ出演等で活躍し、後輩の指導にも情熱を注いでおられます。

パーティーの最後は恒例のラッキードローで大いに盛り上がりました。今年も各種団体や協賛企業から沢山の景品を提供していただき、特別賞のキャセイパシフィック航空提供の大阪ー香港往復ペア航空券とザ・リッツ・カールトン大阪のお食事券では会場内が緊張と興奮で最高に盛り上がり、最後に戒田真幸事務局長の「恭喜発財」で今年も元気にやりましようとの閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

新春セミナー・旧正月パーティー 2008

中京日本香港協会 副会長
事務局長 佐藤 亮一

平成20年度の総会・特別講演会並びに旧正月パーティーが2月22日(金)午後4時より名古屋国際ホテルにて開催された。

当日、ゲストとして本部(東京)より佐藤理事、大阪事務所よりフェリックス・チャン所長、香港経済貿易代表部アルバート・タン氏、他各地区責任者の方々の出席を戴き、御礼申し上げる次第です。

講演会では、香港貿易発展局との共催のもと、日本首席代表古田茂美氏に「進化する香港」と題し、世界に於ける香港の現状、及び中京日本香港協会副会長豊島徳三氏に「尾張今昔物語」と題し、1600年関ヶ原の戦い以降江戸時代の特に名古屋の文化・歴史について、各位には短時間の中で要約され、参加者も盛んにならずく姿が印象的であった。



「進化する香港」と題して講演する古田日本首席代表



「尾張今昔物語」で講演する豊島副会長

午後6時より、旧正月パーティーでは、87名の会員及び会員家族・友人の参集を戴き、恒例のライオンダンスに始まり、特別アトラクションとして「シュレーカー弦楽四重奏」の演奏、そして後半ラッキードロー抽選会にて「香港往復ペアー航空券〜キャセイパシフィック」を始めとし、理事・会員よりのご提供による全員に景品が当たるという楽しみに興じる事が出来た。

パーティーには多数の異業種の方々が出席されており、何らかの香港に関連する方々との名刺交換を通じ輪が広がればと協会としても大いに力の入るところであります。



ライオンダンス 高橋会長と水野副会長(右)

一方、今回セミナーでの講師の言を借りれば昨年7月1日香港返還10周年記念式典が香港で中国共産党総書記を迎え行われたが、その後の動向として経済指標も1~9月のGDPは6.1%、一人当たりの所得が2万8千米ドルに達するとの予測を上廻る結果もあり、その証しとしての失業率も04年の7.9%と比較し現状4.2%まで低下しているのを見れば、観光は勿論、ビジネスの拠点としても著しい経済成長は衰えを知らない感もうなずけます。

中京地区も全国の中で元気のある「名古屋」を持続する為にも、真似はできないとしても香港の情勢は、注視してゆかねばと思われます。

終わりに、新年度総会でもあり、パーティー席上、古田日本首席代表が年頭挨拶でもされた「恭喜发财」以外の香港の正月を祝う用語を紹介しておきます。

●健康長寿を願う相手には

- 身体健康 (広東語: サンタイギンホーン)
- 老如松柏 (ク : ロウユーチョンーパ)
- 龍馬精神 (ク : ロンマーゼンサン)
- 青春常駐 (ク : チェンチョンションジェー)

●商売上の挨拶には

- 生意興隆 (広東語: サーンイヘンロン)
- 一本萬利 (ク : ヤップマンレイ)

●子供の成長を祝うには

- 歩歩高升 (広東語: ボボゴウセン)
- 聰明伶俐 (ク : チョンメンレンレイ)

※上記は、広東語教室生徒の年賀状のやりとりから抜粋しました。

日本香港協会福岡支部 事務局 小石原 涼子

ビジネスセミナー報告

去る2月27日(水)に福岡支部が業務提携しております協同組合福岡情報ビジネスの第19回通常総代会及び創立20周年記念式典・祝賀パーティーが盛大に執り行なわれました。

式典には、福岡県副知事 中島孝之様また遠く東京より香港貿易発展局から古田茂美日本首席代表と大阪事務所所長フェリックス・チャン様、日本香港協会理事佐藤助様にもご出席いただきました。その式典に先立ちまして、福岡国際ホール「志賀の間」にて古田代表による講演会が開かれ、総勢約70名の方々にご参加いただきました。

テーマは「今後の日本・香港・中国経済の動向について」ということで、まずは現在の3カ国・地域の経済状況についてお話いただき、今後大きく変貌していくであろう経済の動きについてお話をいただきました。

古田代表のお話は何時お伺いいたしましても大変興味深く、また斬新性のある内容で、さすがと感心させられる話術で当初15分間の講演予定でしたが、約40分間お話いただき、あっという間に時間が過ぎていきました。またご参加いただいた皆様も大変熱心にお聞きになられ、関心の高さが感じられる講演会となりました。



講演する香港貿易発展局 古田茂美日本首席代表



熱心に耳を傾ける参加者の方々

講演会終了直後には、式典が開催され福岡支部設立当初から事務局長としてずっと当支部を支え続けてくださいました辰元登氏へ協同組合福岡情報ビジネス藤村代表理事より感謝状の贈呈がありました。

辰元氏は福岡県庁在任中の昭和36年から約13年間、香港駐在員として日本と香港の貿易発展の橋渡し役として素晴らしい功績を残されておられます。福岡支部設立時には多くの苦境に直面されましたが、辰元氏の誠実で真摯なお人柄と今まで培われた功績で様々な困難を乗り越えてこられ、まさに私達のお手本となる方です。



表彰を受ける辰元登氏 右は藤村勲代表理事

授賞式では、感謝状と記念品が贈られ、辰元氏の感動的なスピーチは当日ご出席された方々の涙をさそい、私達事務局及び会員一同、大変感銘を受けました。辰元氏の言葉ひとつひとつの中に、今までたくさん出会った方々への感謝の気持ちやそしてその方々への愛情を感じ、私たちの心の中に深く刻まれました。

まだまだひよっこの私たちですが、これからも辰元氏をはじめ皆様方にご指導いただきながら邁進していきたいと改めて思います。

福岡支部役員との「春節の集い」

翌日の2月28日(木)午後より、古田代表及び大阪事務所所長フェリックス・チャン様、日本香港協会理事佐藤様と福岡支部役員との「春節の集い」がホテル日航福岡内にある中国料理「鴻臚」にて開催されました。ほとんどの役員の方々が前日の講演会及び式典にご参加されていたにもかかわらず、ゆっくりとお話する時間があまりなかったためか、色々な話で大変盛り上がりしました。

昼食会は和やかな雰囲気始まり、古田代表からご挨拶と並田会長からのお言葉を頂戴し乾杯となりました。美味しい料理に舌鼓をうちながら、お一人お一人の自己紹介、またそれぞれの会社のお話や香港の経済の動きについて多くのディスカッションが交わされ、有意義な時間を過ごす事ができました。

また古田代表からはご出席いただきました役員の皆様お一人お一人に書籍『進化する香港』が配られ、早速その場でお読みになれる方もいらっしゃる、香港市場の動向・発展に関心の高さが伺えるのではないかと思います。

今後は、本各支部の皆様方にご協力をいただきながら、福岡支部もより積極的に講演会及びセミナーなどのイベントを開催し、より身近に香港を感じることができるよう活動の幅を広げていきたいと思っております。

YAMAGATA

支部 便り

山形支部

山形日本香港協会 副会長 大山 康吉

食文化山形・食材の宝庫やまがた

食について最近残念なことに、中国製冷凍ギョーザ問題や国内でも食品偽装が頻繁に報道され、食の安全について深く考えさせられる時代になっております。

その影響もあるのか、当地山形においては食の安全・素材の良さにおいては最近海外から特に注目される地域になっているようです。

ここ数年の農産物の海外でのフェア・販売会は頻繁に行なわれており、知っている限り、台湾での山形フェアでは山形産日本酒・フルーツの人気は、予想をはるかに超えて盛況だと報道されております。山形清酒組合は本格的なビジネスとして新規ルートにまで成長したとお聞きしております。

また、毎年開催されている香港での県産物フェアでは三元豚や山形牛の人気は高級食材としてかなり高く注目されているようで、一流日本料理店はじめ高級中華料理店でも継続的に使い出しているようです。

ところで、山形の食文化はあまり知られてはいませんが、最近では数多くマスコミにも紹介されているようです。そば街道めぐりは、山形新幹線乗り入れ以降急速に全国に広まり、そば王国になりました。米ど



山形フェアin香港及び台湾

ころ庄内のササニシキは言うまでもありません。郷土料理の横綱いも煮会・珍味冷やしラーメンの発祥地でも取り上げられております。また、フルーツのブランドとして地域の名称が全国的にもなりました。

東根さくらんぼ・南陽ラ・フランス・尾花沢すいか…赤湯ぶどう・庄内メロン・朝日町りんご・鶴岡だぢゃ豆などは国内では有名ブランドになっており、近い将来海外から買い付けやグルメツアーとして到来する時代を感じさせます。経験的に、世界屈指のグルメ香港人を「美味しい」と本当に言わせることはそう簡単ではありませんが、食在香港の人たちに是非来て欲しい“やまがた”です。将来山形と香港を繋ぐキーワードは食が最も有力かもしれません。

今後この路線を何とか具体化継続し、交流を徐々に広げられればとの思いを強く致します。

—— 香港ビジネス懇話会を開催 ——

日本香港協会 理事 野島 威

日本香港協会では、去る12月12日に、2007年度最後の香港ビジネス懇話会を開催しました。今回の懇話会では、株式会社ナムコ 取締役経営企画部長の猪野修平氏を講師に迎えて、“中国市場に挑戦する日本のキャラクタービジネス”という題目で、中国市場におけるコンテンツ・キャラクタービジネスの最新動向と問題点、今後の可能性と課題についてお話を頂きました。

私もモデレーターという立場で進行役を勤めさせていただきました。今回の懇話会はテーマがタイムリーで話題性もあったことから、会場が満席になるほどで大変盛会でした。猪野氏はバンダイで日本国内の玩具事業とりわけキャラクタービジネスに長くかかわってきました。数年前には、上海で中国ビジネスの現場のトップとして陣頭指揮を執り、その後、ナムコの役員として再び中国におけるアーケードゲームに関してきました。こうした経験を通じて、中国の業界や市場の裏も表も、良さも悪さも熟知されている講師の話は、現場にいなれば分からない真に迫る、大変興味深い話が満載でした。

玩具業界がターゲットとする18歳未満の人口が、中国では3.7億人います。この未開拓の巨大な市場を考えれば、今後、最も力を入れたい国であるわけです。しかしながら、中国には、独自の国策があり、文化としてのアニメには政府の干渉や規制が入りますから、

日本のビジネスモデルやマーケティング手法がそのまま踏襲できない問題もあります。中国では、一人っ子政策を背景に、子供の教育には大変熱心で、子供がテレビを見る時間は日本の子供達と違って、極めて制限されています。また、中国人の所得が増えたとは言え、一般家庭にとって高価な玩具はまだまだ手が届きません。猪野氏からは、こうした中国の特殊性や、その中で、市場を開拓していく苦労話のいろいろと紹介されました。

中国のコピー商品の問題では、バンダイがキャラクター商品を発売する前どころか、今では、デザインする前に、中国ではいち早くコピー商品が作られる。従って、もはやコピーとはいえない商品が登場するといったところまで進んでいる。バンダイが逆に商品化のアイデアを頂いたこともある、と言うエピソードの紹介には、思わず笑われた方もおられたと思います。

中国ビジネスで、猪野氏が強調したキーワードは「現地化」でした。企画開発から生産、販売にいたるまで中国の発想を取り入れて進める必要があります。バンダイの資料によれば、中国の玩具市場は、まだ1,500億円程度ですが、近い将来倍々に伸びる可能性は充分ありそうです。

講演終了後の名刺交換会では、玩具業界のみならず、アニメ業界や、中国ビジネスを展開中の方々など幅広い分野の方々との交流を行うことができました。

「香港のつどい2008」開催

北海道日本香港協会 事務局

2月5日(火)に北海道日本香港協会および香港貿易発展局の主催により第3回「香港のつどい2008」を札幌グランドホテルで開催しました。香港政府観光局、北海道、札幌市、北洋銀行にご後援頂き、香港が大好きで強い関心をお持ちの108名にご参加頂きました。

冒頭に主催者を代表しての当協会の高向会長が挨拶。そして香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のジェニー・チョック首席代表、中華人民共和国駐札幌総領事館胡総領事に挨拶を頂き、香港貿易発展局の古田日本首席代表の乾杯により会が始まりました。



あいさつする北海道日本香港協会 高向会長

会場内は香港政府観光局やキャセイパシフィック航空会社によるディスプレイが行われ、香港気分を盛り上げていただきました。また、香港特別行政区政府により、今年の北京オリンピックのうち香港にて開催される馬術競技のディスプレイも行われ、香港をPRしました。

試食品コーナーは、昨年続き(株)ホリスの「夕張メロンピュアゼリー」、「とうきびチョコ」と、今年初参加の石屋製菓(株)さまには「白い恋人」、「美冬」を提供いただきました。北海道で大人気の両社のお菓



なごやかに談笑する参加者たち

子はたいへん好評でした。

会食と歓談がひと段落すると生田流芙蓉会の福本様の琴の演奏で会場は日本的な雰囲気に包まれました。

ミス香港のカイ・チャンさんが会場を巡り一層華やいだ雰囲気となる中で、皆さん期待のラッキードロー大抽選会が行われました。

一番の目玉賞品は香港往復ペアチケットと4泊分のホテル宿泊券セットです。航空券はキャセイパシフィック航空さま、宿泊券は香港政府観光局さまよりご提供いただいたものです。その他、ANAさま、JALさま、(株)ホリスさま、石屋製菓(株)さま、「十勝ワイン」の池田町ブドウ・ぶどう酒研究所さま、香港貿易発展局、北洋銀行などの皆さまから多くの賞品をご提供いただきました。

特賞の当選者は、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空のウッドロー日本支社長さまとミス香港より授与されました。

香港のつどいは例年、「さっぽろ雪まつり」に合わせて香港との文化交流や相互の観光促進をはかるために行われてきた集いです。

香港から北海道へは、年間10万人を超える観光客が訪れていますし、ビジネスや文化の面でも交流が盛んになっています。この会も多くの企業や団体の方に支えられ今年も盛況のうちに終わることができました。来年も多くの方にご参加いただけることを願ってやみません。また、北海道日本香港協会では、例年、夏頃にビジネスセミナーを開催しており、今後もさまざまな交流の場を提供してまいります。

最後に、さっぽろ雪まつりで行われた国際雪像コンクールで香港チームの「南獅子の舞」が見事に準優勝の栄誉に輝きました。今年は例年になく寒い日が続き、雪像作りは大変だったと思いますが、迫力ある見事な出来栄でした。本当におめでとうございませう。



準優勝に輝いた香港チームの「南獅子の舞」

MIYAGI

支部 便り

宮城支部

宮城日本香港協会設立一周年記念 「富県経済セミナー」を開催

昨年11月22日、設立一周年を記念し、香港貿易発展局の古田日本首席代表を講師としてお招きし、「富県経済セミナー」を開催しました。

村井宮城県知事から宮城県の東アジア政策を説明、次に地元代表として、伊豆沼農産の伊藤社長による活動報告があり、最後に「香港ビジネスの現状と未来について」と題して、古田代表による講演が行われました。

大型画面を使つての講演には、香港の魅力が画面せましく映し出され、50名の参加者はまさに香港の虜となつてしまふような雰囲気でした。

終了後の懇親会には、古田代表と直に話ができてとあって、和気あいあいの中にも、香港との貿易に魅力を感じる若い起業家の方々が、熱心に話を聞いていました。



講演する古田日本首席代表

クリスマス・パーティ2007を開催

昨年12月11日、広東料理の老舗「聘珍樓」(アエル31階)にて、女性部会として初めてのクリスマス・パーティを、80名にもおよぶ異業種の方々が参加し、盛大に開催することができました。古田香港貿易発展局首席代表(日本香港協会会長)やベンジャミン・ヨウ東京事務所長を来賓に迎え、地元からも岩崎仙台市副市長に参加いただき、パーティに花を添えていただきました。

乾杯には、協会の副会長の磯田女将會会長が挨拶を兼ねて登壇、昔の思い出を振り返りながら、香港との橋渡しを積極的に推進したいとの抱負を語っていただきました。合間を縫って、ピアノ演奏と歌の披露があり、また、手品のアトラクションもあって、文化を感じさせる宮城らしいパーティとなり、参加者を楽ませてくださいました。

メインイベントは、「お楽しみ抽選会」でした。13社にも及ぶ企業から景品が寄せられ、一言コメントを添えて頂きながらの抽選会、和やかな中にも真剣な眼差しがこちらにも伝わってくるような雰囲気でした。極めつけは香港までの往復空港券(ペア)です。参加

者の皆さんは最後まで気が抜けず、ハラハラドキドキでした。(お疲れ様でした。)



お楽しみ抽選会

会長以下24名で初の香港訪問

念願の本協会会員による初めての香港訪問が実現しました。1月24日から27日の4日間、若干短めのスケジュールではありましたが、会長を代表として24名の会員が元気に訪問してまいりました。

初日は、香港貿易発展局の本局ビルを訪問、林天福(FRED LAM)総裁からぜひ佐々木会長に会いたいとの希望があり、総裁室にて会談することができました。また、訪問団一行は、古静敏(JENNY KOO)海外推進部長の出迎えを受け、会議室に於いて、香港の経済事情と中国における香港の重要性について、説明を受けました。

夜は、「聘珍樓」にて、香港宮城県人会のメンバーとの懇談会を開催、会場では香港政府観光局からの配慮により飴職人によるショーが披露されました。

25日からは3グループに分かれて観光に、マカオ3日組と2日組、そして深圳組です。香港では、ビクトリアピーク、レパルスベイ、スタンレーマーケットなどを見学し、昼は飲茶を、そして午後は買い物、夜はグループ毎に、広東料理を楽しむもの、県人会ゆかりの「あげ半」(セントラル店)で日本料理をいただくものなどです。4日間とも天候はあいにくの曇り空でしたが、ビクトリア湾の対岸にぼんやりと光る香港のネオンに百万ドルの夜景の一端を楽しむことができました。



香港貿易発展局で熱烈歓迎を受ける一行

第5回 素人的
香港食いだおれ事情

老若男女に愛される香港のソウルフード

会員 小柳 敬子

香港では行街（散歩）するのが、私の何よりの楽しみです。歩きながら美味しいお店や茶餐厅を見つけたり、その他いろんな香港らしさを発見すると何より嬉しくなります。地元の人たちと触れあえるのも楽しみです。

さて、散歩をしていると、当然ながら突然小腹がすいてきます（笑）。

レストランや麵粥屋さんに入るほどすいてないけど、ちょっと何か食べたいな～という時、あるいは逆に突然いい香りがしてきてお腹が刺激されちゃった時、そんな時に一番なのが香港のローカルな屋台です。昔は映画館の前などに、文字通り屋台として出店していましたが、最近では固定的な店舗になり、衛生管理も厳しいです。



銅鑼湾の屋台「津味」
この写真は夜中なので人が少ないですが、屋台といってもこんな感じです。

今回ご紹介するのは私が一番よくウロウロしている銅鑼湾にある屋台です。この屋台はかなり大きくて、ご覧の通り数人で調理しています。気になるメニューは、ざっと眺めてみても20種類くらいはあるでしょうか。魚の団子を串刺しして、いろんな味付けで煮込んだり、小イカなどの海鮮を串刺しにして、注文を受けてさっと煮込んだり、蒸し饅頭などもあり、とバラエティに富んでいます。地元では凄く人気があって、いつもおやつを求める香港人で賑わっています。



料理真っ最中
申だけでもこの多種多様な人がかき混ぜているのが、カレー団子。4個で一串。

特に学校が終わってからの午後は、小学生から高校生まで制服を着た学生たちが群れをなしています。世界的ファーストフードチェーンも出店しているなかで、若者が屋台で美味しそうにパクついている姿は、実に食にうるさい香港ならではの光景とってしまいます。もちろん一串が2香港ドル（日本円で約30円くらい）



カレー味のハモつまみれ団子
可愛いくらいのサイズ。これで2香港ドル。持ち帰る人も多く、頼めばちゃんと袋に入れてくれます。

という安さが人気のもとでもあるんでしょうが。

私の個人的なオススメは、ハモのすり身で団子を作り、スパイシーなカレー味で煮込んだ魚団子です。団子は煮込む前に軽く揚げてありますが、これがすごく軽く揚げてあって、食感がカリッとした感じ。日本のしっかり揚げたつまみれ団子とは、全然違う軽い食感です。それとピリッとしたカレー味がマッチして、2本くらいすぐに食べてしまいます。今こうして書いている間も食べたくなってきました（笑）。皆さんもぜひ一度チャレンジしてみてください。目からウロコが落ちる味です。今回もお付き合い多謝&bye bye！



ニラ饅頭
熱々の食感がとても美味しい。

飛龍 No.58 2008年4月発行 (禁無断転載)

日本香港協会 広報委員会

香港貿易發展局東京事務所内

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスト麹町ビル6階
電話 (03) 5210-5870 FAX (03) 5210-5860

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング10階 香港貿易發展局内 電話 (06) 4705-7030

中京日本香港協会

香港貿易發展局大阪事務所気付
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13
大阪国際ビルディング10階 香港貿易發展局内 電話 (06) 4705-7030

福岡支部

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-3-7
協同組合福岡情報ビジネス内 電話 (092) 534-6331

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒橋町1丁目14番21号
(株)日本不動産コンサルティング内 電話 (023) 633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11 北洋銀行国際部内
電話 (011) 261-4288 FAX (011) 232-6921

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内
電話 (022) 212-5552 FAX (022) 212-5556

URL <http://www.jhks.gr.jp>



ONE HARBOUR ROAD



プライベート・ルームで楽しむ全く新しいスタイルの広東料理

シェフ・チームが、お客様がこれまでに経験したことのないような
特別なお料理をご用意させていただきます。

サプライズ・メニュー、ご希望にあわせたメニュー、
セットメニューなどもございます。

ご予約は、25847938までどうぞ。

GRAND HYATT HONG KONG, ONE HARBOUR ROAD, HONG KONG
hongkong.grand.hyatt.com